



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年03月01日号 NO.454

写真提供：大仙市

Subject：大仙市のコミュニティFM開設について

昨年来、新聞記事や大仙市の広報で大仙市にもFMラジオ局が開設される！というニュースを見た人は多いでしょう。2012年初、大仙市にコミュニティFMが必要かどうかを検討する諮問委員会が組織され、民間から小生を含めた若手メンバーも加わって、大仙市にとってFM局が必要かどうかを一年以上にわたり官民一緒に調査・検討しました。その結果、とても有益であり、絶対に必要だという結論に達し、大仙市側も本腰を入れて準備作業を進めています。これまで「いらぬことを喋るな」と口止めされていたため、ドヤツでは一切書きませんでした。来年春の本開局、今年夏の試験放送（8月の花火前後の数週間を予定）を控えて、様々な方から小生に対してご意見や問い合わせがあまりに多く来るようになったため、同じ事を何度も話すよりも、今回誌面に書きたいと思います。詳細が見えないため誤解されている様子もあります。

大仙コミュニティFMの肝・柱は、1) 高齢者や、限界集落に対する声のつながり作りであり、2) 災害・危機時には最重要である情報伝達ラインを確保すること、3) 市内旧町村の意識的な垣根を下げ、交流を活発化させること、の3つになります。

一番聴かれるご意見と、それに対する私からの回答です。

問1：インターネット全盛時代に今さらラジオは意味が無い！（やめろ！）

回答：3. 11の混乱をお忘れですか？ 携帯電話が繋がらない中で、ツイッターやメールなどが非常に重要な通信手段となり、実際に功を奏しました。しかし、同時に根拠のないデマ・ウソもたくさん拡散・流布され、愉快犯を含む様々な発信元から内容の異なる情報が伝わり、現場が大混乱したことは大問題でした。チェーンメールやリツイートという無責任な拡散もトラブルに拍車をかけました（現地での支援活動に関わっていない方は分からないかも知れませんが）。大小にかかわらず、災害時や緊急時には一元管理された信頼できる情報を、安定して住民に伝える体制を準備する事は【公】の大切な仕事です。それはインターネットや携帯電話でないことが3. 11や阪神淡路震災の教訓から明らかになっています。

問2：緊急時を重要視するなら防災無線とスピーカーシステムの方が優れている！

回答：大仙市全域に防災無線を設備すると20億円近くかかります。また風向きや断線などによって聞こえない、室内や車内だと聞こえないというケースがとても多いことが3. 11で実証されました。コミュニティFMなら1億円程度で済みますし、電池式のラジオを常備していれば、電波が届く場所ならどこでも聴けます。

問2：年寄りにはラジオを持っていないし、面倒がってスイッチを付けないぞ！

回答：内容次第ではないでしょうか？ 有益で親しめる内容であれば聴いてくれるものと考えますし、他地域の実例でも多数証明されています。また大仙市は高齢者に対してラジオを提供するなどの施策も検討してくれています。

問3：ラジオなんて聞いている人は少ないぞ！

回答：車中や、職場や、農作業の傍らなど、流し聴いている人は意外と多いのですよ。また今は聴いていなくても、地域に特化した【有用な情報】が提供されればリスナーは間違いなく増えることでしょう。

問4：県内全域をカバーするABSやAKTなどのラジオ局があるじゃないか？

回答：確かにあります。リスナーも多いでしょう。でも秋田県内全域が対象なので、わが街の地元の事をどれだけ伝えてくれますか？ 町内の行事まで伝えてくれますか？ 311の時は地元情報をどれだけ取り上げてくれましたか？（秋田市周辺の情報がほとんどだったでしょう）。コミュニティFMは電波範囲が市内に限られる分、小さな町内や隅々の話を拾い上げやすくなります。隣の父さんがギックリ腰になった話でも良いのです。地に足を付けたニュースとしての極論ですが、朝一番には【皆が実は一番気にして新聞の最初に見る場所＝お悔やみ情報】から伝えても良いのです。

問5：市の情報なら広報紙があるじゃないか？

回答：これからも高齢者数はウナギ昇りに増えていきます。それをケアする若年層は反比例に減少していきます。新聞や広報を隅々まで読んでいる高齢者の人数は、視力の低下、おっくうがり等でどんどん少なくなっていくでしょう。また独居高齢者の増加や、集落内の家数減少から横のつながりや外出機会もどんどん減少するはず。ラジオからの【声】なら、電源さえ入っていれば自然と耳に入ってくるのです。誰かに語りかけてもらっている事で、繋がっていると感ずることができるのです。一人でないと感ずることも出来るのです。だから【声の広報】という価値は重要です。遠藤周作先生が言っています。人は自分が孤独であり、自分の苦しみや痛みが誰にも理解されないと知ったとき、その苦しみや痛みは実際より何倍にも重くのしかかるものであると。声で繋がっていることの重要性が今こそ求められるのではないのでしょうか。

問5：中途半端に都会的なチャラチャラした番組にはなんの魅力もない！

回答：県内には秋田市の他、横手市、湯沢市、鹿角市等にコミュニティFMがあります。県内外の運営実態調査を入念に行いました。運営面の費用で考えても、当然喋りのプロにお願いすればお金がかかります。だから、垢抜けなくてもいい、喋りが多少下手でもいい、方言でもいい、地味だけど温かい番組を心がけていきたいと思えます。また【声の広報】という観点からも、市内の様々な業界団体に協力を依頼することになります。例えば医療や、警察、消防、農業関係、学校、地域団体等々です。それぞれの団体も【声の広報】手段として、運営費の支援だけでなく、実際の番組作りの段階から積極的に関わっていただく。例えば病気の知識や

予防告知、防犯の啓蒙、学校情報、農事情報・相場の提供、小さな催事情報などです。

問6：税金の無駄使いだ！

回答：いざという時のために設備と運営の用意を怠らないことは3. 11で嫌というほど味わいました。そしてそれは保険的に費用もかかるものです。もうお忘れですか？ そして弱い者（ここでは高齢者）のためになる仕組みを作る・運営することは公＝行政の責務です。しかも今回の大仙FMでは設備は公負担ながら、運営は公と民で費用を出し合って運営することになります。これまでの検討の結果、長い目を見た費用対効果は逆にとっても高いものです。

ちょっと長くなりましたが、この3頁のドヤツーだけでは全てを伝えることが出来ません。

運営主体はTMO大曲になっています。いずれにせよ、「ふ～ん、出来るんだって？」と無関心であることではなく、積極的・前向きに議論しながら、様々な方に加わっていただいて良い方向に進めていきたいものです。無関心ほど、無責任で格好悪いことはありませんよね。アーダコーダ外からも申すだけでなく、一緒に協力してみようじゃありませんか。